平成30年（2018）
阿づまの光
9月号・Septembro

大本東京本部
開設50周年

教主さまお作 灰釉茶盌 銘「大八洲」

【金龍海大八洲土　金字松釉】

題字出口直日
通巻第594号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 猪子 恒
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

時間を大切に精進の日々

祭務課長　高野春樹

東京本部での私の日課は、時間をなるべく無駄にしないようにと、各種祭典、御祈願、祝詞奏上等、勤めのかたわら、浄書、物語拝読と散歩にいそしんでいます。ご神諭の浄書は朝拝・朝食の前後に、『霊界物語』拝読は夕食後に、拝読後は散歩に出掛けます。エスペラント短歌も作るようにしています。

浄書は、大学ノートに最初はボールペンで書き始めましたが、その後墨をすって毛筆で書くようになり、今は歌祭の景品で頂戴した筆ペンで書いています。浄書で始まる一日はとても心地よく、心を整えてくれます。

拝読は一日一時間から一時間半をノルマとしていますが、一昨年初頭に思い立ち、何カ月で全巻拝読ができるか試み、七カ月で終えることができました。同じペースでもう一度全巻拝読を終えた後は、普通のペースで全巻拝読に一年と数カ月かかりました。拝読により、心魂にお力をいただいていることを実感しています。

散歩は一日に約一万五千歩、少し早歩きで二時間程の歩行が目標で、新橋駅界隈往復が目安です。スクワットやウエイトトレーニングがいいのかもしれませんが、私は、ただ歩くことで体調を整え健康な足腰を得ていると思っています。

綾部奉職中に「ブラジリア大本エスペラント歌祭」の献詠を目指して、エスペラント短歌を始めました。月一回エスペラント短歌作成の指導、添削をさせていただいています。決まり事がいくつかあり少し難しいのですが、テーマを決めて数個のエスペラント単語を導き出し、それらをつなげます。日本語の短歌をエスペラントに訳したりもします。とてもクリエイティブな作業だと認識しています。「エスペラントの歌祭」に向け皆さまも作ってみませんか。

今月の聖言

神の書ひもとくごとに新しく
思ふは神の恵みなりけり

出口王仁三郎聖師

人生を豊かに生きるヒント

～大本の四大綱領とは～

四大綱領（祭・教・慣・造）――。ちょっと難しい言葉ですが、人間がこの世に生まれ、次第に進歩向上していく過程において、この四つの段階があります。人間の使命、人生の本分を尽くす生活の原理ともいうべき四大綱領。そこには人生を豊かに生きるヒントが隠されています。

魂を向上させる旅

大本の教祖・出口王仁三郎聖師は、『霊界物語』などの教典で、この世での人の使命を端的に示しています。

人は神の子、神の生き宮であり、この世に生を受けた瞬間から亡くなるまでの生涯が、〝み魂磨き〟といって、魂を向上させるための旅であると教えています。

また、人には、個別に宿命と運命が与えられています。宿命とは、天命、すなわち生まれながら天から与えられたもので、これをどうすることもできません。これに対し、運命は、人生という旅の中でさまざまな経験を重ね、魂に徳を積みながら、自らの意志で道を切り開き、前に進んでゆくことができます。

人はそれぞれの宿命を悟り、運命を切り開いていくことができれば、人生という旅は成功です。

I was born.

人の誕生も同じです。

日本では、「子供は授かりもの」と表現されてきました。英語でも「生まれる」ことを、I was born. 過去形の be 動詞＋bear の過去分詞で、「生まれさせられる」と、受動態で表現されます。

これは、人は、神さまから、この世に送り出されたことを意味し、畏敬の念や感謝が込められているのではないかと思うのです。自分の意志で「生きている」のではなく、人は神さまによって「この世に生かされている」という、視点にたったとき、なぜ生かされているのか、その意義、答えを探し、それを達成する旅が、人生といえるのではないでしょうか。

また、「生かされている」のですから、生まれてから亡くなるまでの一生、今日一日、明日一日、その最後の瞬間までを大切にして、心豊かに、生き生きと生活しなければなりません。

人生の本分

聖師は、さらに「肉体をもって心を神にまかせ、誠を貫きて、世のため道のためになることを残すが、人と生まれし本分である」と説いています。

では、人生の本分とは、どのようなものでしょうか。

聖師は「人生の本分は、祭・教・慣・造の進歩発達にある」と説いています。「祭・教・慣・造」とは、聖師が高熊山修行で授けられた大本のみ教えの根幹で、これが大本の「四大綱領」であります。

大神さまが人類を救済されるためのみ心（世界救済の神律）、また人の魂が進歩向上してゆくための道筋（人類生活の根本原理）というわけです。人がこの世に生まれ、生活を通して魂を向上させ、人生を豊かに生きるための方針、大眼目なのです。

この「四大綱領」とは次の四項目です。

- 祭（さい）　～まつり～　惟神の大道
- 教（きょう）　～おしえ～　天授の真理
- 慣（かん）　～ならわし～　天人道の常
- 造（ぞう）　～なりわい～　適宜の事務

宇宙、万物、天地、一切の森羅万象は、この祭教慣造の神律による絶妙なバランスで成立しています。

祭から教、教から慣、慣から造へと、神さまから神慮が下る道筋ともいわれます。逆に、造から慣、慣から教、教から祭への順序は、魂が向上完成してゆく道筋といわれます。人生の中で魂が進歩発達し、段階を踏まえながら向上してゆく人生の大道です。

本日は、祭から慣までのみ教えを一区切りとして、人生の本義、目的をご一緒に考えたいと思います。

祭～惟神の大道～とは、一言で申しますと調和のことです。マツリとは「真釣り」と表現されるように、真（しん）に釣り合うことを言い、左右のバランスを取る天秤ばかりなどに例えられます。

大きくは大宇宙のリズムの中にも「真釣り」があります。太陽を中心として回転する太陽系は絶妙なバランスを保っています。まさに「真釣り合わせ」ができている証（あかし）です。地球上では、人や動植物などの大自然の調和も「真釣り合わせ」です。

祭典は、まさに神さまと人のまつり合わせです。またこの世（現界）とあの世（霊界）のまつり合わせなど、さまざまなものが調和とバランスによって保たれています。

人もこれに習い、すべての存在と「真釣り合わせること」によって、人生は楽しく豊かになり、やがて神さまに手を合わせ、神さまをありがたいと感じさせていたくことができるのです。

教～天授の真理～とは、人間の限られた知恵による教えとかいうものでなく、まさに天が授けてくださった、神からの正しい知識や智慧のことです。また正し

～21世紀・生きがい講座～

柿崎 哲男（愛善宣教課主任）

い神さまの気に触れ、より良い道へと、魂を向上させることでもあります。

ですから教えとは、頭で覚えるだけでは役立ちません。神さまに対する報恩感謝と、その実践が大切です。これにより神さまに対する畏敬の念が育まれます。自らの魂を鍛えるための「教え」であり、その教えを実践してこそ魂が鍛えられるのです。

俳万智さんの短歌から

親は子を育ててきたと言うけれど
勝手に赤い畑のトマト

現代短歌の歌人、俳万智さんの『サラダ記念日』の中の一首です。この歌は、発表から30年以上たった今でも、その表現が新鮮に感じられます。

この歌の意味は人によって捉え方はさまざまですが、私の感じるままに読ませていただくと、まだ人生経験の浅い子の視点からは「親は自分に対して口うるさく言うけれども、自分なりに成長してきた」と受け取れます。が、親の視点からは「トマトが赤くなるのは赤く熟すことをだれかに教わったわけではないのは事実。しかし、甘酸っぱく、真っ赤に完熟するためには、適切な土作りや肥培管理、日照や水やりなどの自然環境やお世話のたまものなのだ」と、広く、深い意味に読み取れると思います。

「親が子を育てる」というとき、それは、太陽のように、水のように、大地のように、さまざまな形で環境を整えながら「育み」を与えていくことであり、また、直接的には何も教えなくとも、親の姿、生き様を見て子供が学び、感化されることもあるはずです。

同じように天授の真理により「神さまが人を教え導く」とは、何も直接的に人に対してご教示が下るわけではありません。生活の中で、その人それぞれが乗り越えることができる範囲の試練をお与えくださり、人間的努力を積み重ねることで、魂がより広く深く鍛え上げられるのです。

魂を練り鍛え磨き上げる

慣～天人道の常～とは、天、すなわち神さまから人に与えられた慣性、個性を活かし、人類和合へ導く道のことです。人には先天的に与えられた善良な慣性と、後に生活の中で身についてくる、後天的な慣性があると教えられています。

先天の良い慣性とは、一霊四魂、五情の戒律などの魂の働きです。

一霊とは直霊のことで、善悪を判断する正しい判断力、反省心・良心です。この直霊のもとに、正しいことを勇気を持って行動する荒魂（あらみたま）、私欲のために争わず周囲と親交を深める和魂（にぎみたま）、万物に畏敬の念を持って愛情を注ぐ幸魂（さちみたま）、神さまから内流をいただく智慧（ひかり）のもと、正しい真理を悟る奇魂（くしみたま）、これが四魂の働きで、これが向上へとつながります。

しかしながら、これにも天国的な心と地獄的な心の二律背反の感情があり、迷うことが多々あります。ですから、良心のもとに荒魂、和魂、幸魂、奇魂の働きのバランスを取り、いつもより高い天国的な心でいられるように魂を練り鍛え磨き上げることです。このことは、現界でしか行うことができない魂の修行、み魂磨きです。

心豊かに過ごす

後天の慣とは、生活の中で身についてくる、良いクセや悪いクセのことです。それは「無くて七クセ」と言うように、自分ではなかなか気づかないもので、だれしも必ず持っています。

自分だけが正しいと思ってしまう心、周囲に対する親切心の有無、このようなものごとの受けとめ方もクセです。

大本三代教主補の出口日出麿尊師が、「自分の悪い慣を一つ直した人は、大変な宝の塔を建てた人、一つの世界を改造した人といってもよいのであります。人間の一生は、ある意味において、慣を直すことである。悪い慣をなおし、良い慣をますことであります」

と示しているように、一生のうちに悪いクセを一つでも治すことができれば、大きな成果を得たことになります。

悪い慣（クセ）を改め、良い慣、長所を伸ばしながら心性、魂を磨いて、心豊かな生活を心がけたいものです。

そして、「生かされている」意味を見つめながら、神さまや祖先、大自然への感謝、畏敬の念を忘れず、人と仲良く調和を持って生活をすることが大切ではないでしょうか。

私たちは、生まれた瞬間から、たくさんの涙を流して一生を送ります。内面を豊かに、生き生きと過ごすことで、最後は笑って、一生を終えたいものです。

掲載文は、平成30年4月18日に航空会館（港区新橋）で開催した「21世紀・生きがい講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

東光苑月次祭は8月12日、午前10時30分から、斎主・高野春樹祭務課長のもと執行され、297人が参拝した。祭員は千葉主会、伶人は二絃の会関東支部、大本神諭拝読は朝倉暢子群馬主会長、添釜は東光庵にて神奈川主会が担当した。

祭典後、開教百二十六年瑞生大祭での教主さまごあいさつを拝聴。続いて鈴木穎一大本本部長があいさつ。西日本を襲った台風12号被害をはじめ、各地で頻発する自然災害に対するお見舞いを述べた後、天恩郷での「四大綱領」碑、「大本武道場」扁額の除幕式での教主さまのご様子を紹介。

また大祭時の大本歌祭の話題から、東京大本歌祭の執行について「東京本部開設50周年記念『東京大本歌祭』では、海外の駐日大使、国内の宗教者などを来賓として準備を進めており、教主さまが願われておられる『エルサレムの歌祭』への布石として意義ある歌祭とさせていただきたい」として、当日、歌垣に奉納される献詠歌の投稿を呼びかけた。

さらに、人類愛善会国際ネットワーク国際集会のバンコクでの大本青年の活動の様子を紹介。アジアでの宗際活動の重要性に触れ、「大本青年を国際的な視野を持つ人間として育てたい。大本青年はアジア諸宗教のリーダーシップを取ることができる」「ゆくゆくは諸宗教の青年にもエスペラントを推奨し、言葉の壁を越えた交流を図りたい」と述べ、青年信徒の海外交流団参加や梅松塾入塾を呼びかけた。

引き続き、飯田俊明大本総代から、東京本部開設50周年特別献金の御礼と経過報告があり、直会にうつった。

東光苑秋季祭式講習会

日　時　9月15日（土）午前9時半より受付
～17日（月・祝）午後3時半ごろ閉講予定
会　場　大本東京本部・東京宣教センター
参加費　1人1,000円
※食事・宿泊代は別途実費を徴収します
内　容　初級クラス：基本動作から月次祭まで
中級クラス：庭上祭・結婚式など
上級クラス：招魂式・発葬式・50日合祀祭など
申込み　受講クラス・食事・宿泊を明記の上、東京宣教センター祭務課「秋季祭式講習会」宛にお申込み下さい（定員30人）
締　切　9月10日（月）必着

東光苑大道場修行

東光苑大道場修行は、7月14日から16日の3日間、東京宣教センターを会場に開催され、12人が受講した。

天恩郷より前田茂太大道場講師を招き、同講師ほか東京本部職員により聖地の大道場修行のうち、天恩郷での4日間分の講座を開講。八雲琴での鎮魂、食作法を始め全14講座を実施。《受講者には2年以内に梅松苑での残りの講座を受講すると、修了証が授与される》

受講者からは「無理をせず、今できることを心をこめ、最善をつくさせていただくことがご神意なのだと思いました（女性）」「大本のみ教えを、いかに日々の生活に生かしていくかが課題だと感じました（男性）」等の感想が聞かれた。

21世紀・生きがい講座

第185回「21世紀・生きがい講座」は、7月18日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、宮原雅博・特派宣伝使が「霊界がわかれば生き方が変わる～永遠の世界を見すえて～」と題して講話した。参加者は23人（内、一般3人）。

はじめに講師が鎮魂を実施。続いて「霊界は目には見えないが感じることのできる世界。その感じ方は人それぞれである」と語り、体験談を交えながら、さまざまな実例を紹介。

また、現界と霊界との関係として相応の理的世界観を説明し、祖先の霊魂に対する現界からの追善供養など〝みたままつり〟の重要性を説いた。

参加者からは「意思想念の重要性を再認識し、反省させられた」（男性・信徒）、「霊界と現界の関係、祈りの大切さを身にしみて感じた」（男性・一般）、等の声が寄せられた。

東光苑祭典・行事予定

9月

9日（日）午前10時30分
東光苑月次祭・長寿感謝祭・交通安全祈願祭・秋季合同慰霊祭

11日（火）午後7時
全国一斉世界平和祈願祭

15日（土）～17日（月・祝）
東光苑秋季祭式講習会

19日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（航空会館・新橋）
講題　守りたい「日本の心」
～大本三代教主・出口直日が残したもの～
講師　成尾陽（大本本部愛善宣教部長）

23日（日・祝）午前10時30分
三代教主毎年祭（28年）

24日（月・振休）午後6時～
東光苑秋をめでる夕べ

10月

8日（月・祝）午後2時～
大本東京本部開設50周年記念
東京大本歌祭

14日（日）午前10時30分
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

17日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（新橋・航空会館）
講題　道院と大本の出合い
～提携95年の歴史に学ぶ～
講師　山田歌（大本本部総務課長）

18日（木）午後7時
霊界物語全国一斉拝読会（第51回）

20日・21日（土・日）
大学生社会人講座 en TOKIO

27日（土）午前10時30分
家庭平安祈願祭（第27回）